

ダニ媒介感染症

県感染症情報センター

声なき感染症を知る

◆87◆

夏はアウトドア・レジャーにびつたりですが、草むらや藪などでマダニの活動が盛んになっています。暑い時期に注意すべきダニ媒介感染症の特徴と正しい予防策についてお話しします。

▽マダニとダニ

マダニはダニの仲間ですが、両者の性質はかなり異なります。ダニというと、一般的に布団やカーペットなど屋内にいるもので、0.3〜1mm程度と目に見えないほど小さく、その糞や死骸はハウスダストに含まれアレルギーの原因となります。

一方でマダニは、成虫で1〜5mm程度あり肉眼で見つけることができ、吸血すると吸血前の100倍にまで大きくなります。マダニは野生動物が生息する環境や、民家の裏庭や裏山、畑など

人へは感染はしません。ややこしいですが、「ダニ媒介感染症」とは、屋内にいる小さなダニではなく、主にマダニが媒介する感染症のことを指します。

▽死に至る危険な感染症も

ダニ媒介感染症には、「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」「日本紅斑熱」「ツツガムシ病」「ライム病」などがあります。これらの病気は発熱、

は、しっかりと感染対策をしましょう。▽肌の露出をなくして予防

草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖シャツ(裾はスボンの中に入れる)、長スボン(裾を靴下や長靴の中に入れる、もしくは登山用スパッツを着用)、足を完全に覆う靴(サンダル等は避ける)、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくしてマダニに咬まれないようにしましょう。また、虫除け剤の中には服の上から用いるタイプがあり、補助的な効果があります。そして、屋外活動後はすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部(髪の毛の中)など柔らかい部位にくっつくことが多いです。

夏はマダニの活動期 露出を減らして予防

に生息し、同じくダニの仲間であるツツガムシは野山や河川に生息しており、いずれも基本的に野外にいますが、ペットなどを介して家の中に持ち込まれることもあります。

そして、病原体を保有するマダニやツツガムシが人間に吸血することで感染症を媒介します。飛沫や接触などで人から

倦怠感、発疹などの症状が出現し、診断が遅れると死に至ることもあります。特にSFTSは主に西日本の山間部で発生しており、致死率が10〜30%と高く、とても危険な感染症です。

▽気温上昇でマダニの活動活発に

気温が上がるにつれ、マダニの活動は盛んになり、人は肌の露出が増えるため、草むらや藪に潜んでいるマダニに刺されたり、咬まれたりするリスクが高くなります。このため、キャンプなどのアウトドア・レジャーを楽しむ時

▽奈良県の近隣県で流行

奈良県で報告されたダニ媒介感染症の感染者数は、2016年以降、ツツガムシ病が2017年と2019年に各1例▽日本紅斑熱が2019年に1例と2020年に3例▽ライム病が2020年に1例と少ないです。ライム病に関しては奈良県を推定感染地域とする初めての患者でした。

しかし近隣の和歌山県や三重県では毎年、日本紅斑熱が10人以上報告されています。県内の山間部においても草むらや藪に入る場合には注意深く感染予防を行いましょう。



アウトドアを題材にした人気アニメとコラボレーションした、ダニ媒介感染症の予防・対策を呼びかける厚生労働省のポスター(出典・厚生労働省のホームページ)